

森林環境教育(森林ESD)活動報告・意見交換会発表概要

① 活動報告課題名

「森の体験」「森まなび塾」による森林ESD

② 発表団体名

特定非営利活動法人 イー・ビー・イング

③ 発表概要

「森の体験」および、「森まなび塾」は、都市住民のための森とつながるセミナー＆活動体験として、大阪府内や奈良県吉野町の森林をフィールドに、①森について学ぶセミナー ②森林保全活動や自然観察会 ③森林を楽しむ森林セラピーやウォーキングを組み合わせたプログラムを実施している。

対象は小学生と保護者を中心に幅広い年代の都市住民で、自然と触れ合う機会が少ない人々に、森林がもたらしてくれている様々な恩恵を知り、保全の重要性を知って体験し、積極的に楽しむ機会を提供する。

14年度以来参加者は延べ約300名、都市と森林、日々の生活と環境問題などのつながりを理解し、日常生活において森林を身近に感じる人を増やし続けている。

1. 「森の体験。」(2014年度日本郵便年賀寄附金配分事業)の紹介

2014年6月～2015年1月に5回のセミナー＆活動体験と1回のシンポジウムを開催。

参加者延約230名

活動場所 紀泉わいわい村の里山、河内長野市滝畑ダムと岩湧の森、奈良県吉野町、大東市飯盛山や野外活動センター、河内長野市林業関連施設など、大阪市内など

活動内容

①森について学ぶセミナー

「森の役わりを知ろう～森林が守る生物多様性～」 「地球温暖化と異常気象」

「河内長野の水源の森」「吉野の森を知る・楽しむ・つながる」

「森の木が住宅になるまで」「大阪市内の国産材活用」など

②森林保全活動や自然観察

「夜の森、朝の森の自然観察」「水源の森自然観察」「川上村250年の森訪問」

「生駒花屏風ハイキングでの植樹」「河内長野での間伐体験」など

③森林を楽しむ森林セラピーやウォーキング

「水源の森ウォーキング」「森林セラピー体験」

「吉野桧シートを使ったキャンドルホルダー作り」

「間伐材のウッドシェイカーづくり」「ネイチャーゲーム」など

活動の成果

★最終回のシンポジウムでは「森につながる100人宣言」として、参加者のメッセージを集めて発表

寄せられたメッセージの一例

- ・自然がいろいろとつながって人間のくらしに役立っているとわかりました。（小学生）
- ・大きな木も小さな花もカニの出産も命をつなげているのが健気に感じました。
人間は他の生き物に謙虚であるべきですね。
- ・虫にいっぱいあえた。虫にさわれた。（幼児 保護者聞き書き）
- ・山が都市の水を守ってくれていると改めて実感しました。
- ・人の手によってつくられた森が多くあること、そして守っていくことの意義、木を使い続けることが、CO2を貯蔵している点で役立つこと、文化的価値を森林から受けていることも知った。
- ・セミナーを聴いてからのウォーキングは森林を見る目が違いました。
- ・250年の森、杉を手のひらで触った感触はすばらしかった。

★セミナー＆活動体験の森林のクレジットによるカーボン・オフセット

大阪府森林組合～スローウッズの森林づくり～

2. 「森まなび塾。」(2014・15年度大阪コミュニティ財団助成事業)の紹介

2014年9月、11月、2015年9月に3回のセミナー＆活動体験を実施。

参加者延約70名

活動場所 奈良県吉野町

活動内容

①森について学ぶセミナー

「吉野の森の特徴と守ることの大切さについて」

「吉野の原木～製材～住宅を知ろう」

「森のめぐみのご紹介～森林が育んだおいしいものや文化遺産について～」

「日本のもりと水と空気を守る～普段のお買い物を通して環境貢献～」

②森林保全活動や自然観察

「2009年の広葉樹植林地での下草刈り」「奥千本桜の植樹の準備活動」

③森林を楽しむ森林セラピーやウォーキング

「森林セラピー体験」「森林ウォーキング」

活動の成果

森林ボランティア活動体験だけでなく、森林保全の重要性や林業について、また都市生活で環境貢献する方法を知るセミナー、実際に歩いて実感する機会を組み合わせることによって、参加者に「森林は大好きなもの、大切なものだから守っていきたい」という気持ちが生まれました。

3. 今後に向けて

都市と森林、日々の生活と環境問題など、あらゆることはつながっています。

そのつながりを意識すると、「森林が私たちの命を支えていること」「森林を守る活動は自分たちを守る活動であること」「直接森林を保全する活動でなくても、森林に出かけて楽しむことや、国産材製品を使うこと、カーボン・オフセット商品を購入することなどでも森林を守ることや環境保全に貢献できること」が理解でき、日常生活においても森林保全や持続可能性に思いを致すことができると考えています。

これからも都市住民だからこそ、「森林保全への行動をとる」「まちの中で自然と親しみ、環境貢献を考える」人々を増やしていきたいと考えています。